

西条盆地（広島県）の水草相への追加と訂正

下田路子

(広島大学理学部)

筆者は西条盆地のため池の水草について報告した(下田 1987a, b)が、その後の調査で新しく生育を確認した種や訂正すべき点が生じたので、以下に記しておく。

1. マツモ

1989年9月に、西条盆地のため池の水質調査を続けておられる橋本卓三氏より、西条町稲荷にある昭和池にマツモが生育しているとの知らせとマツモの標本をいただいた。マツモの生育が西条盆地で確認されたのはこれからはじめてである。さらに筆者も、同年10月に西条町西側にある池(名称不明)でマツモが大量に生育しているのを確認した。どちらの池にも、ヒシが水面に密生していた。

2. タヌキモ類

西条盆地のタヌキモ類を、筆者はこれまでタヌキモとヒメタヌキモとして報告してきた。しかし内山(1987)は広島県内で「タヌキモに該当するものはみだことがない」と報告しており、また山本・角野(1988)は「従来、タヌキモとされた産地の多くが実はイヌタヌキモではないか」と述べているため、西条盆地の「タヌキモ」を再検討する必要を感じた。

1989年に観察した花をつけている「タヌキモ」は、全て花茎が水中茎より太く、また花茎の中心に気道はなかったためイヌタヌキモに該当した。また「タヌキモ」としていた標本の越冬芽はいずれも楕円形で小さく、イヌタヌキモのタイプのものであった。この結果は上記の内山(1987)や山本・角野(1988)の見解を裏づけるものであった。

3. フサモ類

西条盆地にフサモ類は3種が生育しており、これらをオオフサモ、タチモ、フサモとして報告してきた。このうちの「フサモ」は、水面上に出た葉が白色を帯びているのが気になりながらも「フサモ」としていた。これは角野(1988)が指摘しているように、水上葉が帯白色の

オグラノフサモは稀であると思いついていたことが一因である。

角野(1988)は上記のタヌキモとイヌタヌキモの場合とよく似た関係を、フサモとオグラノフサモについて報告している。つまり「従来フサモと同定されてきた標本の中に、かなりオグラノフサモが含まれていると思われる」というものである。これを読んで、西条盆地の「フサモ」もオグラノフサモの可能性があったと思った。そこで1989年の10月下旬から11月下旬にかけて、12の池で「フサモ」の越冬芽の形を観察した。その結果、どの池のものも、越冬芽は細長い棒状をしたオグラノフサモの形であった。念のために角野康郎博士に標本をお送りしたところ、やはりオグラノフサモであるとお返事をいただいた。また西条盆地の南方にある呉市灰ヶ峰の大積池に生育していたのもオグラノフサモであった。

西条盆地一帯のオグラノフサモの分布は、角野(1988)の「西日本に関する限りフサモよりオグラノフサモが多いようである」という見解を支持するものといえる。しかし広島県内のほかの地域の「フサモ」に関しては、いまのところほとんどわかっていない。

引用文献

- 角野康郎. 1988. 兵庫県南部のフサモとオグラノフサモ. 植物地理・分類研究 36:75.
- 下田路子. 1987a. 西条盆地(広島県)の溜池の水草. 水草研究会報 29:5-7.
- . 1987b. 西条盆地で新たに確認した水草2種: ミズニラとオオフサモ. 水草研究会報 30:12.
- 内山 寛. 1987. タヌキモ属について. 水草研究会報 29:11.
- 山本功人・角野康郎. 1988. 兵庫県南部におけるタヌキモとイヌタヌキモの分布. 植物地理・分類研究 36:72-75.